

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名【新】高等学校における演劇等ワークショップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8658)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 28,226 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	28,226	8,387	0	0	0	0	0	0	19,839
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

社会構造のグローバル化が進む中、多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力が求められている。しかしながら、近年、高等学校においては、自分をうまく表現することや他者とのコミュニケーションを図ることが苦手なことにより、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。

プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現等のワークショップを実施することにより、自己表現を通して、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育む。

(2) 事業内容

- ・プロの演出家や俳優等を講師として招き、演劇表現等のワークショップを通じて、生徒に対しディスカッション、創作、表現等の活動を行う。
- ・高等学校における演劇等ワークショップ指定予定校 19校20課程

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	20,412	講師謝金
旅費	7,752	講師旅費
会議費	62	会議費
合計	28,226	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育ビジョン
施策I 「豊かな人間性」の育成
1 多様な人となつながら、関わる力の向上と心の教育の充実

(2) 国・他県の状況

実績なし

(3) 後年度の財政負担

第4次岐阜県教育ビジョンによる

(4) 事業主体及びその妥当性

県立高等学校の生徒に関する事業のため、県が実施する

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

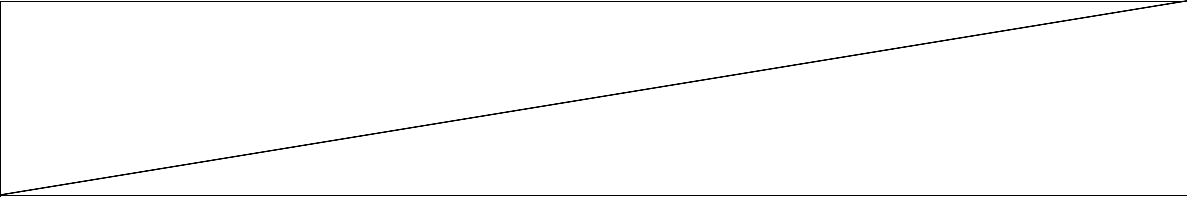
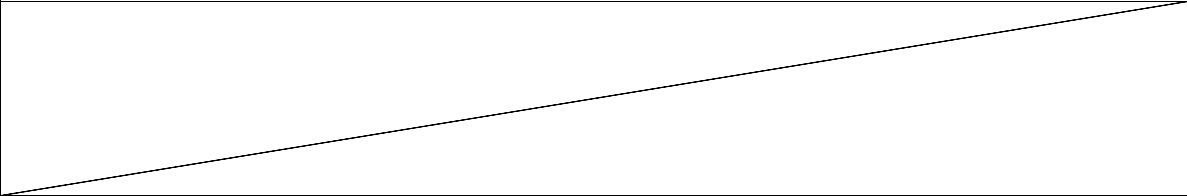
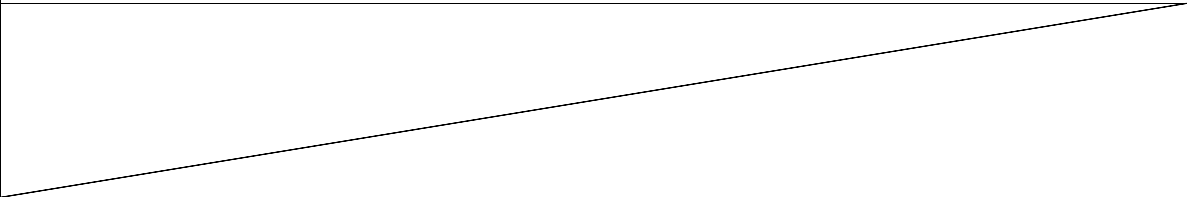
コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る演劇ワークショップを入学時の初期適応段階で実施することにより、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育むとともに、学校生活への適応力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
自分にはよいところがあると思う高校生の割合	84.3%			90%	90%	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和5年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力の育成は、当該19校のみならず県内の多くの高等学校が抱える課題である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和6年度実施の県立高等学校19校を中心に対象校を精査し、継続実施する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】